

病児保育奮闘記

(14)

子どもサポート H&K

大石 仁美

春の一時保育 盛會に終わる

設立当初から要望の大きかった一時保育ですが、もうすっかり恒例行事になりました。優秀なスタッフがいてくれるおかげで評判がよく、病児としては利用しないのに、一時保育のためだけに会員継続をしてくれている方もおられて、「小学三年生を過ぎて行く！」と、子ども達が盛り上がっているというのを聞くと、やっぱり嬉しいものです。

春は年度替わりで、仕事によっては一番忙しいときです。園も同じように新年度を迎える準備があるので、一日二日お休みにするのは仕方ないですね。うまいことに、病児保育のほうはこの時期、意外と暇なので、お互い願ったりかなったりというところですよ。

参加者は、30日が10名。31日が15名。スタッフ7名でのぞむ体制が整ったので、外遊びで、急に駆け出す子がいっても大丈夫。一日目は好天に恵まれ、出雲路橋から植物園まで鴨川べりをウォーキングです。この程度の距離なら2歳児も喜んで歩いてくれるし、ばあば達にもいい運動です。

例年なら、桜と雪柳が満開で、華やかな鴨川ですが、今年は気温が上がらず、寒い日が続いたせいで花はさっぱり。それでも道端にオオイヌノフグリの愛らしい花をみつけて騒ぐのは、ばあば達の方です。



植物園に着くと子どもたちは一目散に遊具広場へ。開園と同時に入るので、さほど混雑せずに遊べます。

個性が光る子どもたち

子どもたちの遊ぶ様子を見てみると、個性の違いがくっきり。それは面白いほどで、興味深いも

のでした。

大人しくてあまり自己主張しないと思っていた1才10カ月のゆうくん。最初躊躇していたけれど、面白いとわかると、自分のレベルより少し上をなんども挑戦するたくましさ。子どもってすごいです。

イヤイヤ期真っ盛りのあーくん。2歳6か月。

「トイレに行こう」「行かない!」「ご飯食べよう」「いらない!」ふんふん、要らないのね。でも本当は欲しいのがみえみえ。彼はいちど口にした以上後にはひけないのです。イヤイヤ期というよりこれは“へそまがり”かもね。いじっぱり。なにか元に戻るきっかけが必要みたいです。ん・・?しばらく思案。そしてあるきっかけでスイッチが切り替わると、もう食べる食べる。そのおもしろいこと!!さらに面白い発見が。彼の遊ぶ姿はなんともエネルギッシュ。踊りながら走り回り満面の笑み。こんなところがあつたんだと感動。すごいねこの子。きっと今から人間関係の距離の取り方を学ぼうとしているのかも。将来が楽しみ!

同じくイヤイヤ期の2歳6か月のみっちゃん。

大人が手伝うと初めからやりなおし。すべて自分で。なかなか思うように出来ないことでも、最後までやり遂げようとする意志の強さ。自分なりに納得が出来た時の満足そうな顔。勝気で聡明な表情はバアバには刺激的!ああ、なんてこの子も楽しみな子でしょう。

3才7か月のまあくん。皆から離れてひとり落ち葉ひろい。なにをしているのかな。じっと見ていると、小枝を拾って、そこに落ち葉を一枚一枚刺しています。そして遊具の隙間に差し込みました。まるでモズの早贄を思わせます。「ねえ、それなあに?」「焼き芋だよ」思いがけない答え。大人の想像と違ってました。にこにこしてマイペース。いいねこの子。すてき!!

1歳9か月のたあくん。1歳の時は泣いてばかりで、ずーっと「抱っこ」だったのに、見違えるほど元気に走り回っています。転んでも泣きません。土手のぼりが面白らしく、ちょっと“あぶない”のが楽しいのです。駆け降りるときのスリルはたまりません。成長めざましいですね。

3才になったばかりのちいちゃん。なんておだやかな子!静かに一人遊びも出来、お友達にもやさしく、大人が声を掛けるとにこにこと応じます。どうしたらこんな子に育つんだろう。不思議です。

帰り際、お迎えに見えたお父さんのおだやかな笑顔をみて、ああそうかと、ちょっと納得した次第。すべてはDNAの成せるわざ。やっぱり親に似るんです。当たり前だけど。

こんな生き生きとした眩しい子どもたちと一日を過ごす、ばあばあ達の細胞も活性化するようです。疲れるけれど、貰うものの方が多いから毎年この時期を楽しみにしているのです。

一か月前から準備は少しずつ

「一時保育をやります」とお知らせ通信を出して、希望者がそろったところで、参加者の顔を思い浮かべながら、スケジュールをつくります。

何して遊ぼうかな。図書館で紙芝居を借りてきたり、工作の材料をそろえたり。お弁当の献立も作らなくては。いろいろ思いを巡らす時間が楽しいのです。

午睡をしない年長さんは、小さい人たちが寝ている間が**工作の時間**で、今年は万華鏡づくり。指導は“ケフばあばあ”です。手先が器用で博識の“ケフばあばあ”は毎年工作指導の担当で、子どもが「自分でつくった!」と満足できるように**指導**するので、大人気!!きちんと教えてそっと助ける。その辺がコツのようです。これが一時保育のハイライト!!

おべんと、おべんと、うれしいな♪



ひいちゃんばあばあが一番のしごとは、食事づくり。

一日目はちらし寿司。人参、シイタケ、高野どうふ、錦糸卵、えんどうまめ、そしてなんととっても穴子。瀬戸内海そだちの私の寿司は穴子なしには考えられません。たれをつけて焼いた穴子を加えるだけで味がしまり、口に入れた時のふわっとして香ばしい感触はなんともいえません。

この日のために魚屋で穴子を見つけた時に買い求め、素焼きにして冷凍しておきます。そして当日の朝たれをつけて焼くのです。他の食材は前日に炊き込んでおき、冷蔵庫に保管して、当日火を入れ、酢飯のなかに混ぜ込みます。

弁当箱を子どもとスタッフの分15個、もし病児が来た時のことも考えて2個余分に計17個机に並べ、順に詰めていきます。配色が美しくなるよう気を付けながら、最後に子どもが“うわっ”と喜ぶようにデザートにイチゴを置くことを忘れません。これで完成。

二日目は小さい子がいるので、やっぱりハンバーグ。これがメインなので大き目サイズの100g。25人分を一度に作るのはちょっとハードなので一週間まえにグリルで焼いて冷凍しておきます。

おにぎりも一人分ずつ冷凍。ひじきと人参、大豆、油揚げの煮物も冷凍しておきます。そして当日の朝、解凍して火を通してから盛り付けます。彩にミニトマトとブロッコリーを加えて完成です。今の時代は電子レンジやオーブンが大活躍。これなしに何もできません。有難いことです。

さあ、時間内に出来上がったら、箱につめて自転車の荷台に積み出勤です。

施設に着いたら、すぐ大型バギーに積み込み出発の準備。スタッフが子どもたちのトイレ介助をしている間に、忘れ物がないか荷物の点検。全員トイレをすませたらお茶を一杯飲ませて、いよいよ出発です。

「ねえ、今日のおべんとうなあに？おやつはなあに？」食べることは楽しみだもんね。みんなで楽しくワイワイ食べて完食！！これが一番うれしいです。

ああ、たのしかった！！

植物園では食事を終わるとすぐに芝生の上で追っかけっこをしたね。

帰り道、石段を上がったたり下りたり、道端にしゃがみ込んで、アリさん行列をながめたり、可愛い野の花を見つけては、ママのおみやげに、摘んで持ち帰ったね。

次の日は雨マークだったけど、ぼつりぼつりしたら、すぐ走って帰ればいい、数分で帰れるからということで、鴨川べりでボール遊び。サッカーもキャッチボールもしたね。

身体を動かした後は、小さい子たちはぐっすり眠り、大きい子たちはますます冴えて工作づくり。自分で何かを作り、完成させた満足感は今日一番の宝もの。これからも大切に持ち続けることでしよう。次の一時保育までみんな元気だね。

これからもみんなの成長がたのしみ、たのしみ！！